

平成28年度 第1回霧島市ケーブルテレビ放送運営委員会 会議録

日 時：平成28年10月13日（木）午後1時30分～午後2時30分
場 所：国分シビックセンター 602会議室（行政棟）

1. 開会
2. 副市長あいさつ
3. 放送運営委員自己紹介
4. 職員紹介
5. 委員長の選任及び副委員長の指名
6. 放送運営委員会概要説明
 - (1) 放送運営委員会の任務について
 - (2) 委員の任期について
7. 議題
 - 溝辺地区ケーブルテレビ運営事業の現状について

【議題に関する質疑】

委 員：霧島市で放送局を行政で作って運営（自主放送）されているのか。それとも、南九州ケーブルテレビネット株式会社（以下「MC T」）に依頼して作成してもらっているのか。

事務局：アナログ放送をしていたときは、独自のチャンネルを持っており、文字放送で行政連絡、また、地域の話題や各種イベントの自主番組を放送していた。デジタル放送になり放送施設をデジタル対応に替えると多額の費用がかかるため、MC Tのチャンネルを時間枠で借りて自主番組を放送している。また、文字放送の代わりにデータ放送（MC T作成）で行政情報を入れてもらっている。番組制作はMC Tに委託している。

委 員：番組の内容は溝辺地区と他の地区と同じものか。

事務局：そのとおりである。

委 員：同じ内容を放送しているということだが、サテライトみぞべがある2地区で特別に番組を制作しているのか。

事務局：特別に制作はしていない。

委員：それでは、その2地区の役割は何か。

委員：サテライトみぞべ周辺の2地区の理解を得られたので、サテライトみぞべの設置ができたといういきさつがあり、継続的に地域整備環境交付金が支払われているということである。また清掃費など地域の環境整備費を交付してもらえるとということで、設置に賛成したのではないかと。

委員：溝辺地区以外の基本料金はいくらか。

事務局：1,080円（税込）になる。

委員長：次に委員の皆さんからご意見は何かないか。

委員：溝辺地区ケーブルテレビとMCTの放送内容が、ほぼ同じということか。溝辺地区ケーブルテレビが存在するメリット・デメリットは何か。MCTが全て放送を配信することにしたかどうか。

委員：関連は不明だが、落雷の発生度合いが高くなった気がする。そのことでケーブルテレビをやめたいという人もいる。具体的に説明ができるのであれば、説明をしてほしいという意見が多少ある。

委員長：事業自体をやめたいということか。加入をやめたいということか。

委員：違う。ケーブルテレビの電線に雷が落ち、それが原因で3年で6回テレビを替えている人がある。自分の地区で40台テレビが駄目になった。それとクーラーが10台ぐらい、あと洗濯機、温水器の回路が焼けたこともある。公民館長宛てに保険の申請のため届出（罹災証明）をされる。中には保険に加入して無い人もいる。1件のお宅で2回続けてテレビが壊れた。落雷で電柱のヒューズが飛んだり、アンテナ部に接続した放送施設（コミュニティ無線）が駄目になったこともある。ここ3～4年は落雷が非常に多くなってきた。太陽光発電の関係で落雷しやすくなっているかもという話もあり、ケーブルテレビにも関連性があるのではという話が徐々に出てくる。保険に入っている人は良いが、3台も4台もテレビが壊れ、その原因がケーブルテレビの線を伝ってくる落雷のためということならば、加入をやめたいという人も現実いる。

委員：溝辺地区ケーブルテレビ専属の職員がいるのか。

事務局：市職員が兼務で行っている。

委員：MCTと事業内容が同じ中で、MCTに譲渡をするときに引き受けてくれる可能性があるのか。

事務局：可能性はあるかと思う。前段階として事業主体は別だが指定管理という方法もあり、協議を行っている。

委員：MCTは受入れ体制があるのか。

事務局：可能性は十分ある。

委員：光テレビというものがあり、別の回線でドラマ・時代劇等24時間放送し

ている。インターネット回線も高速である。多少MC Tより高額になっているが、こちらの選択もある。MC T多チャンネルの番組案内を地域の人が分かれば、MC Tに入り直そうとしようとすることも考えられる。

委員：ケーブルテレビの電線が原因で誘雷するのかどうかを検証する必要があるのではないか。

委員：落雷の被害を止めるような仕組みにはなっているが、想像を絶する力があり、仕組みを飛び越えてくる。また地下からも電気が入ってくる。地域によって被害に遭いやすいところと、そうでないところがある。

事務局：委員がお住まいの桑迫地区の東側と西側の落雷が特に多い。

委員：数十年住んでいるが、ここ2～3年で落雷が非常に増えた。太陽光の影響ではないかとの話は出てくるが、よく分からないところである。

委員：ここ2年は黒字になっているが、運営は環境交付金をあてにしているのか。

事務局：サテライトみぞべの設立と溝辺地区ケーブルテレビの開局が、同時期であった。当時の加入率は98%あり、競輪環境交付金を幅広く住民に還元するためにケーブルテレビ事業に充てるようになった。サテライトみぞべもいつまで存続するか不明なので、環境交付金に頼らない運営をしないとけないと考えているところである。

事務局：補足説明をさせていただく。今のところ赤字分については一般財源からの補てんを行ったが、赤字が続くようであれば次の段階を考えていかないと、この事業自体が成り立たなくなる。溝辺地区の基本料金が500円（税別）、下場地区が1,000円（税別）である。この500円の差も溝辺地区公民館長さん方の了解を得ており、今のところ黒字なので基本料金の据え置きをしてほしいということで据え置きをしている。しかし、これが逆転して大幅な赤字が続き、一般財源から補てんするようになれば、溝辺地区だけが特例という形になってしまうので、一般財源を充てずに環境交付金を充てて、黒字が出るうちは今の形で行く予定である。

委員長：それでは、本日の御意見をまとめると、

①事業自体の必要性について、メリット・デメリットを整理して、MC Tもあるので、今後の事業検討をしてほしい。

②落雷がケーブルテレビに要因しているのかも含めて、対策を検討してほしい。

③MC Tが運営を引き継げるのであれば、引き継いでも良いのではないか。

という3項目の意見が出されたので、委員の皆様においては、それぞれの意見や本日の資料の内容を踏まえた上で、次回の委員会に臨まれるようお願いする。

8. その他

9. 閉会